

マルティネルの街角で

YKI 国際特許事務所 弁理士◇葦原 エミ

Vol. 3 エミィのおいしいネガ・チェック

ラタトゥイユってご存じ？

ナスやズッキーニ、タマネギ、トマト etc. を、オリーブオイルとニンニクで炒めて(うう、良い匂いだ)、香草を入れて、ワインで煮込む南仏料理だ(ああ、想像するだけで、おいしそう……)。

そのラタトゥイユが登場する「レミーのおいしいレストラン」はハッピーなディズニーアニメ。誰より料理を愛している主人公のレミー君(ネズミ)が、料理の才能が全くないアルフレッド・リングイニ君(人間)とタッグを組み、パリで一番のレストランを目指す。

ある時、幾つものレストランをつぶしてきた、酷評で有名な料理評論家の来店に彼らは慄くが、ラタトゥイユを振る舞ったところ、その評論家は自分の原点である“幼少期に食べたおふくろの味”をそこに見いだす——という心温まるストーリー。

私、実はアンチ・ディズニーですが、この映画は別。

しかし、だ。この作品の素晴らしさは、日本語では味わえないそのタイトルにある。

原題は、ズナリ「Ratatouille」。すごいっ！ え？ 何がって？

このタイトルは、ラタトゥイユ(Ratatouille)をネズミ(Rat)のレミー君が作るっていう、超ビューティフルな掛け詞になっているんです！

でもお。まずラタトゥイユを知っていて、これがRatatouilleと書くと知っていて、Ratがネズミだと瞬時に分かる人でなければ、この「おいしさ」は味わえない。日本語だと、ちょっと、ううう～ん。。。

意味のみならず、言葉の醸し出す雰囲気は、残念ながら万国共通ではない。鶏が「キッキレキー」と鳴いたり、「ぶーぶー」が「オィンク、オィンク」に聞こえる欧州諸国では、食感を見事に表した江崎グリコの名商標「POCKY」が、なんと「MIKADO」になってしまう。

ウソかホントか、「ポッキー」という音が何か違うものを連想させたり、場所によっては「pocky」にネガティブな意味があったりするらしい。

江崎グリコの公式サイトによれば、「細い竹の棒を使って遊ぶ“ミカドゲーム”にヒントを得た命名だそう(ミカドゲームって何?)。

欧州で「MIKADO」は大人気。だけど、日本だと「帝」のイメージで、かなり変。。。

逆に、凶らずも現地語に見事にマッチすることがある。

ネスレがグローバル展開している商標「KitKat」。

「キットカット」の音から「きっと勝つ」を連想するなんて、日本人ぐらいだろう。

——というわけで。

タイトルや商標なら、時と場所によって、「致し方ない、変えましょう」はできましょう。でも、ヒトの名前となると、コレ、すごく問題。

今のところ、ほぼどこの国の人でも一発で覚えてもら

える「エミ」の名をくれた両親にはかなり感謝している。どこかでネガな意味がある、というも聞いたことないし。日本語の意味は？ と聞かれれば「笑み」と答えておく。

どんな親も願いを込めて名付けるのだろう。でも、某国大臣の名前を見て思った。「私、Simonettaじゃなくってよかった♥」と(シモネッタさん、ごめんなさい)。

ネガティブ・チェックが一番必要なのは、実は子どもの名前かも……。



※ 撮影協力: デリリウムカフェトキヨー (霞が関)